

# 地方版MaaSの広域連携基盤構築モデル事業(ひたち圏域) 茨城交通株式会社

**実験の概要:** 公共交通を中心とした社会への転換のために既存交通と新モビリティサービスを融合し、多様なMaaSサービスやPFと連携するためのデータ/システムの広域連携基盤を交通事業者が主体となり構築することで、持続可能な地方版MaaSモデルの実現を目指す。

**協議会の構成員:** 茨城交通株式会社(代表企業)  
**交通事業者:** 電鉄タクシー、ひたちなか海浜鉄道、みちのりHD  
**自治体:** 日立市、ひたちなか市、東海村、高萩市、茨城県  
**教育機関:** 茨城大学 **民間事業者:** 日立製作所、常陽銀行、ナビタイム

**MaaSの提供により解決したい地域の課題**  
 高い自家用車依存率と人口減少により維持困難である公共交通を、来るべき高齢化社会においても持続可能な地方版モデルへと転換することを目指す。  
**【転換に向けて解決すべき地域の課題】**

1. 高い自家用分担率に起因する渋滞等の社会的損失
2. 既存交通を補完する新モビリティサービスの取込
3. サービスの認知度向上と利用環境整備
4. サービスの効率化・省力化

**交通手段と連携するサービス**  
**【地元住民向け】⇒ 来訪者向けのクーポン**  
 温泉施設・ショッピングモール(シーマークスクエア)・商店街(那珂湊本町通り商店街)、茨城大学との連携  
**【観光客向けの連携施設】⇒ 施設の入場券や割引クーポン**  
 既に企画乗車券を販売するひたち海浜公園・大洗水族館・借楽園・弘道館・徳川ミュージアム・県立歴史館・芸術館などとの連携を目指す。

**本格的な導入に向けた検証項目、目標値**

- 1. 利用者関連指標**  
 取組ページへのアクセス数: **20,000imp以上** / 地域内の取組知度: **50%以上**  
 アプリDL数(合計): **2,500以上** / チケット販売数: **10,000枚以上** / 周遊券の販売枚数: **100枚以上** / セット券・企画乗車券の販売数: **100枚以上** / 通勤型デマンドの利用者数: **300人以上** / ラストワンマイルデマンド利用者数: **100人以上**
- 2. 交通事業者関連指標**  
 基盤に参加する事業者数: **3社以上** / 利用者数ベースのカバー数: **70%以上**  
 新しく作成した商品数: **5つ以上** / MaaS基盤へのデータ提供社数: **4社以上**
- 3. MaaS事業者関連指標**  
 システム基盤へ対応事業者数: **3社以上** / チケット発券する事業者数: **3社以上**

**実験内容**

- 1. 連携する交通モード・アプリ**  
 日立エリア内のバス・鉄道・タクシーの既存交通がMaaSに参加地域の公式アプリは作らず既存アプリへデータ・システムを公開し、多様な販路でひたちMaaSの販売を促進。  
 (小田急電鉄Emot、ジョルダン社JMaaS、デザインウム社Samurai MaaSが対応予定。Navitime社はモデルアプリを作成)
- 2. 新モビリティサービスの提供**
  - ① 通勤型デマンドサービス**  
 最寄バス停から職場まで直接通勤するデマンドサービスを提供
  - ② ラストワンマイル型デマンド(団地内)**  
 AIを活用したダイナミックルーティング技術を提供するVia社と乗換検索エンジンを持つナビタイム社が連携し、乗換検索結果にバスとデマンドが同時に表示、検索・予約するサービスを実現
  - ③ 自動運転+ラストワンマイル型デマンド**  
 自動運転バスの停車バス停から先のラストワンマイルにデマンド型交通を提供し、シームレスにつながるサービスを提供
  - ④ カーシェアリングサービス**  
 稼働率の低いセカンドカーや社有車をシェアリングカーとしてMaaSサービスに組込



**3. 先進的な技術活用の視点**

- データ・システム連携基盤の構築(データ利活用モデル(下図) / 需給分析・可視化)
- 電子チケットの発券ルール共通化(標準化)とMaaS事業者向けにAPI解放
- デマンドとバス・鉄道を同一経路上で検索する検索エンジン(ナビタイム/VIA社)
- 自動運転サービスと融合: 20年11~21年3月に中型バスの自動運転実証

